



良くも悪くも…？

今年の10月に「100の指標からみた沖縄県のすがた」が刊行されました。これは47都道府県の中で本県がどの位置にあるのか、各方面の指標を用いて編集した冊子です。この資料から、良くも悪くも「ウチナー」の姿が見えてきます。

第2章 6-(1)人口増加率

都道府県名	順位	平成17年 人口増加率 (%)	平成13年 人口増加率 (%)
全国	-	-0.01	0.31
東京	1	0.75	0.83
愛知	2	0.64	0.68
沖縄	3	0.61	0.68

第2章 6-(2)自然増加率

都道府県名	順位	平成17年 自然増加率 (%)	平成13年 自然増加率 (%)
全国	-	0.01	0.17
沖縄	1	0.54	0.68
愛知	2	0.24	0.40
神奈川	3	0.23	0.37

第2章 6-(3)社会増加率

都道府県名	順位	平成17年 社会増加率 (%)	平成13年 社会増加率 (%)
全国	-	-0.04	0.11
東京	1	0.50	0.49
愛知	2	0.34	0.22
沖縄	3	0.17	0.11

第2章 6-(4)出生率(千人当)

都道府県名	順位	千人当たり 出生数 (人)	出生数 (人)
全国	-	8.4	1,062,530
沖縄	1	11.9	16,115
滋賀	2	9.5	12,899
愛知	3	9.4	67,110

第2章 6-(6)死亡数(千人当)

都道府県名	順位	千人当たり 死亡数 (人)	死亡数 (人)
全国	-	8.6	1,083,796
埼玉	45	6.9	48,095
神奈川	46	6.8	58,801
沖縄	47	6.7	9,021

第2章 8-(1)年少構成割合

都道府県名	順位	総人口に占め る0~14歳人 口の割合(%)	年少人口 (千人)
全国	-	13.65	17,435
沖縄	1	18.35	251
滋賀	2	15.33	213
佐賀	3	14.95	129



人口については、自然増加率・社会増加率ともに高い状態がうかがえます。死亡率は逆に低く、「長寿の島」を裏付けているかもしれません。

出生率も年少構成割合もともに高く、子供の多い県であると言えます。

しかしながら、保育園の普及率は第44位であること、一方幼稚園の就園率が全国1位であることから、5歳児保育問題はまだ根深いと思われます。

第7章 53 保育所普及率(対保育対象者数)

都道府県名	順位	保育対象者に 対する保育所 定員の割合(%)	保育所定員数 (人)
全国	-	0.93	1,986,138
沖縄	44	0.73	23,989
福島	45	0.68	24,140
山梨	46	0.68	20,811
茨城	47	0.65	35,118

第9章 65 幼稚園就園率

都道府県名	順位	就園率 (%)	幼稚園修了 者数 (人)
全国	-	57.73	682,082
沖縄	1	81.67	13,803
神奈川	2	73.32	59,481
宮城	3	71.10	15,482



第9章 66-(1)進学率 高等学校

都道府県名	順位	中学校卒業 者の高等学校進 学率 (%)	対全国指数
全国	-	97.7	100.0
愛知	44	96.8	99.08
福岡	46	96.6	98.87
沖縄	47	95.2	97.44



第9章 66-(2)進学率 大学

都道府県名	順位	高等学校卒業 者の大学等進 学率 (%)	対全国指数
全国	-	49.3	100.0
熊本	45	37.9	76.88
岩手	46	37.2	75.46
沖縄	47	33.6	68.15



第9章 67 専修学校・各種学校数(10万人当)

都道府県名	順位	10万人当 り学校数 (校)	専修学校・ 各種学校数 (校)
全国	-	4.05	5,170
和歌山	1	7.53	78
三重	2	7.34	137
香川	3	6.91	70
沖縄	4	6.61	90

年少者が多い県でありながら、高等学校や大学への進学率はともに全国最下位となっています。一方、専修学校・各種学校の数は全国4位の多さであり、バラエティに富んだ進路があるとも言えます。

- ◆100の指標からみた沖縄県のすがた
http://www.pref.okinawa.jp/toukeika/100/100_index.html
- ◆5歳児保育問題について
<http://www.okishakvo.or.jp/html/fioki/95web/index.html>

次は「社会人スタート」へ。

